７月９日（水）２校時　外国語科　８年生　［８年１組　教室］

指導者　堂面　貴洋

１　単元（題材）名　Our Project 4～世界の屋台料理をプレゼンしよう～

２　単元（題材）設定の背景

教材観

本単元では、世界の屋台料理について調べまとめて、発表する活動を扱う。既習事項である Program 3 では、自国と他国での屋台料理からその文化の違いについて扱っている。その内容を基に、紹介したい屋台料理を考えることができる。また、発表する対象は７年生としている。７年生に「食べてみたい。」と思ってもらえるように、伝える内容や構成、表現に加え、伝え方を考えることができる。以上を踏まえ、世界に広く目を向け、食べ物に関する文化やその特徴について考え、またその考えを聞き手に配慮しながら、相手に共感してもらえるように伝える活動を行うのに適している。

生徒観

本学級の生徒は、外国語でのコミュニケーションに前向きに取り組んでいる姿が見られる。令和７年６月実施授業アンケートでは、多くの生徒が日常のコミュニケーションで意識していること（「自分の意見を言うこと」「沈黙をさけるために話題を出す」など）を、外国語でのコミュニケーションにおいても意識していることがわかった。一方で同アンケートにおいて、「英語でコミュニケーションを取るのに難しさ」を 83.8 %の生徒が感じており、その多くは「即興で言いたいことが表現できない。」「単語がわからない」ことに難しさを感じていた。日常での豊かなコミュニケーションを、外国語で実践しようとしている一方で、それを表現するに至っていないことが課題であると考える。

集団観

本学級の生徒は、自身の成長や課題を意識して、学習に取り組んでいる様子が見られる。また上記アンケートにおいては、「自己の成長や課題への意識」と「教師からのフィードバックによって得た学びや気づき」に強い相関があった。教師の言葉掛けが、生徒自身の成長や課題への自覚に影響を与えている可能性があると考えられる。一方同じアンケートにおいて、「自己の成長や課題への意識」と「他者の考えを自らの学びに生かそうとすること」との相関は弱かった。この結果から、自己の成長や課題に関して、他者の多様な考えや表現を、自己の成長や課題解決に活かそうとすることには課題があると考えられる。

指導観

学級内で見られる日常での豊かなコミュニケーションを、他者の考えを参考にしながら外国語でのコミュニケーションに活かせることを目指し、次の２点を重点的に実施する。**① 日本語と英語におけるコミュニケーション比較**：同じテーマに関して日本語と英語の双方を用いてコミュニケーションをとらせ、それらの比較から英語で実践したい表現や態度を考えさせる。**② 生徒の多様な考えから新たな学びや気づきを促す問い**：①の考えに関して全体で共有する中で、その理由に関して全体へ問い返すことで新たな気づきや学びを促す。

３　単元（題材）の目標及び計画（全 10 時間）

■単元（題材）の目標

世界の屋台料理に関して、聞き手に「食べて見たい」と思ってもらえるようなプレゼンテーションをすることができる。

■単元（題材）の計画

第１次　単元の見通しを持つ・紹介したい屋台料理を設定する。・・・・・・・・・・・３時間
第２次　紹介したい屋台料理について紹介する英文を考える。・・・・・・・・・・・・３時間
第３次　聞き手に「食べてみたい」と思ってもらえるようなプレゼンをする。・・・・４時間（本時２／４）

４　単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の屋台料理について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、不定詞や接続詞 if/when などの簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身につけている。	聞き手に「食べてみたい。」と思ってもらえるように、世界の屋台料理に関して、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手の質問に答えたりしている。	聞き手に「食べてみたい。」と思ってもらえるように、世界の屋台料理に関して、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手の質問に答えたりしようとしている。

５　本時の学習

■目標　聞き手に伝えたいことを理解してもらえるように、必要な表現や態度を身につけようとしている。

■レジリエンスを発揮している子供の姿

自らのコミュニケーションに関して多角的に振り返り、目的や相手に合わせて関わり方を考え、そこに必要な英語表現や態度を身につけようとしている。

■学習過程　※（全）（小）（個）：学習形態（全：全体の場　小：小集団　個：個人）㊟：留意点　㊥：評価の観点（方法）

学習事項	生徒の活動	教師の働きかけとねらい	集団
１．学習課題への接近	（1）2 min chat を行う。	（1）英語でコミュニケーションをとろうとする雰囲気を作る。 ・話題に関してその考えをいくらか共有し、話題に対する考えを持ちやすくする。 ・会話を続けるための表現を使用するよう促す。	（全） 英語の授業は安心して失敗できる雰囲気を作ることを意識する。
２．学習課題の設定	（2）学習課題を設定する。 **自分の選んだ屋台料理について、７年生に興味を持ってもらうためにすべきことを考えよう。**	（2）前時に確認した内容を基に、課題を設定する。 ・前時に取り組んだプレゼンを想起させ、その目的に沿ってすべきことを考えさせる。	（全） 自分たちの課題から全体の課題を設定する。
３．学習課題の追求 （プレゼンテーションの実施） （プレゼンテーションの振り返り）	（3）プレゼンテーションを英語で行う。 ・プレゼンにおける役割（司会・発表・サポーター・聞き手）をグループ内で決める。 ・一方のグループが発表、もう一方が聞き手になり、時間が来たら交代する。 （4）プレゼンテーションから、プレゼンで大切なこと考える。 ・司会： ・質問を促す。 ・聞き手を注目させる。 ・発表： ・アイコンタクトをとる（聞き手を見る。） ・ハキハキした言葉を伝える。 ・相手の理解を確認する。 ・サポーター： ・質問に答える。 ・発表の補足をする。 ・聞き手： ・わからないことは質問する。 ・リアクションをする。	（3）プレゼンを実施する中で、それぞれの役割の生徒がすべきことを考えるよう伝える。また、プレゼン内で咄嗟に使用した日本語に関して、それは英語で伝えたいことであることを踏まえ、後の発表に生かすよう伝える。 （4）（3）で実施し感じたことを基に、プレゼンにおいてすべきことを考えさせる。 ・各グループの考えを全体で交流できるよう、それぞれの考えを Google スプレッドシートに記入させる。 ・他グループの記述を参考に、プレゼンですべきことについて全体で共有する。 ・全体で共有した考えに関して、すべきだと思う理由について考えさせる。 ㊟生徒から出た考えを深められるよう、その理由や込められた気持ちを問う。	（小） 生徒から気づきを得られるように促す。 （小）→（全） 各自が考えたことを全体で共有し、多様な考えがあることに触れる。その中にある子供の言葉から、新たな気づきを促す。
４．本時のまとめと次時への発展	（5）本時のねらいから活動を振り返り、次時につなげる。 ・発表をする時に相手の方を見ること普段から意識していたけど、その方が相手の心に伝えやすいと気づいた。自分たちが伝えたいことが伝わるように、まずは相手をしっかり見れるように意識したい。	（5）本時の振り返りから、プレゼンで意識したいことを考えさせる。 ・自身のプレゼンを想起させ、特に取り組むべきことを考えさせる。 ㊥聞き手に理解してもらうために必要な表現や態度を実践しようとしているか。（振り返りシート）	（個） 本時で得た気づきを以後の学習に活かさせる。